

2024 年度 学校法人 三幸学園 仙台こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 津脇 俊

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 平山 乾悦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○保育の魅力を発信

オープンキャンパスでは、高校生に職業としての魅力を伝えるため、保育経験者の話を取り入れたり、保育園児との関わりを増やしたりすることで、保育を仕事にしたいと思ってもらえるよう取り組んだ。

しかし、入学者数の増加には繋がらなかったため、新たな施策が必要である。

在校生に対しては、授業内で保育のやりがいを伝えることに重点を置くとともに、保育園との連携授業を増やし、就職後のイメージを持てるようにすることで退学率が 2023 年度 7.7%だったものが 2024 年度 5.8%に減少した。

○卒業生支援について

前年度同様、卒業後 1 年未満の卒業生を対象に単年度同窓会を開催し、卒業後でも相談しやすい環境づくりを行った。しかし単年度同窓会加の参加率は 25%に留まるなど目標の 60%には届かなかった。

実習巡回時に卒業生の園にも訪問し、状況を確認するなど接点を増やして支援の機会を作っていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：AI が社会に浸透している中で、保育に関しては充実した仕事を求められる状況になり、国としても 処遇改善の実施や待遇が良くなるような取り組みをしてくれているので、オープンキャンパスでも高校生に伝えて欲しい。また現場の声を伝えることはとてもいい取り組みだと思う。

加藤委員：本校2の保育園にも見学に来てくれて、高校生や保護者が保育士とのやり取りを見て保育の仕事を身近に感じてもらい、保育を目指すきっかけになるといいと思っている。

相澤さん：他校でも卒業支援(同窓会など)を行っている学校はあるのか。卒業生が同窓会に参加するために、学校から園に案内がある方が休みを取りやすいのか。

真壁委員：園に直接の案内はないが、卒業生としては嬉しい支援だと思う。ただし卒業生がどの園にいるのか把握が難しいと思うので、園に案内する場合は WEB アンケートなどが必要になると思う。
また、オープンキャンパスの頻度はどのくらいか。

津脇さん：季節によるが毎週末に行っている。大学のように年に数回の開催ではなく、行きたいと思った時に参加してもらえるようにしている。複数回参加する方もおり、在校生と触れ合うことで学校の雰囲気を感じてもらえている。一番動員が多いのが3月だが、参加者が少ない日の方が満足度が高い傾向がある。

平山委員：学校の PR はどのように行っているか。

津脇さん：東北地域へ WEB 広告やオープンキャンパス参加者へはダイレクトメール、また広報室が高校を訪問して進路ガイダンス等をしている。

平山委員：県内外の参加者割合はどうか。

津脇さん：県内が6割で、少子化により他県の保育科が廃止になっていることもあり、他県から参加してくる学生もいる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や目標の設定、周知までは適切であるが、その後理念や目標がどの程度達成できているかについて、効果検証をする必要がある。

② 今後の改善方策

・理念や目標、育成人材像は生徒、保護者へ継続的に周知していくが、目標と現状の差を考える必要がある。また、引き続きどのような状態を目標にするのかを具体的に考える機会を設ける。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤さん：現場で理念を定着させるためにやっていることはあるか。

真壁委員：近年、法人としてまとまりをもっていくために、誕生日月の職員を集めて理事長の講話を聴いたり、ディスカッションをしたりする場を設けている。

津脇さん：集まって何かをすることが平日は難しいと思うが、どのように行っているか。

真壁委員：平日の会議に全職員参加が難しいため、月1で昼の部と夜の部に分けて全職員が会議内容を聞く機会を作るようにしている。

平山委員：担当部門ごとにも研修を行い、法人の中で関係構築するのは役に立つようにしている。

小山田委員：働き方改革で夜研修がなくなった。理念は年齢別で研修をしている。保護者に見せる動画や懇談会でも保育理念を伝えているため、常に保育理念が頭に入っている。理念について伝えていくのは近い年齢の先輩から伝えるようにシステムができている。主任から伝えると壁ができてしまう可能性もあるため、あえて年齢の近い先輩を配置している。

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・人事制度が変更になり、制度の内容理解は進んだが、制度をより浸透させることが必要になる。
- ・学習システム(sankogate)等を使用し、タイムリーな情報発信や課題管理など更に効率化のために活用する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学生ひとりひとりが PC やタブレットを使用し、授業での課題や提出物に取り組める環境を整備していき、ICT を活用した更なる業務の効率化に取り組む。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：保育の現場では、ドキュメンテーション(保護者が見られる報告動画や写真)を作成できる学生が入ってきてくれると現場としては助かる。大枠は既定のものを使うが、館長の今月の一言や職員のおすすめなど手書きのものがある。手書きの部分は特に見ているため、短い時間で記入できる学生が入職してくれると現場としては戦力になる。

真壁委員：情報処理の授業はあるのか。

相澤さん：基本的なスキルを身に付ける授業はあるが、現場を意識して授業を受講している姿勢は少ない。

小山田委員：現場では懇談会で写真や動画を用いて日頃の様子を見せたり、成長を見せたりすることがある。先輩からやり方を教えてもらえるが、卒業生の立場から授業で実践できていればよかったと思う。

加藤委員：動画を編集することはある。毎日の撮影した写真を毎日更新するようにしており、ブログやおたよりでも写真を掲載している。

真壁委員：保育参観でも動画を使用している。資料は Word、月案は Excel を使っており、クラスによっては PowerPoint を使ってプレゼンのようにして説明しているクラスもあり、研修でも役立つ技能だと思うので、パソコンができると頼もしいと思う。しかし、連絡帳は手書きの方がより気持ちが伝わると思うため現在も手書きにこだわっている。パソコンを使用する頻度が高くなると漢字変換に頼ってしまい、漢字が書けなくなる懸念点もあると思う。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・授業評価アンケート結果を向上させ、授業の満足度を上げる。
- ・教員自ら資質を向上させるために学ぶ姿勢と風土作り。
- ・授業見学ができる制度を設けているが、参加者が少ない。

② 今後の改善方策

- ・実践的な授業を多く取り入れて、質の向上をする。
- ・授業見学など教員が学べる機会を設けているので、参加者の促しを行う。
- ・教員の指導力強化のために内部、外部研修への積極的参加促進。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤さん：最近の学生の学びについて感じることはあるか？

小山田委員: 在学中に先生が手遊びをしてくれていたのが、現場に立つと引き出しになるので、授業で提供されていることは大事だと思う。

加藤委員: 手遊びやペープサートなどの作り物を作っていないと現場に出てから響くと実感している。クラス的环境整備や壁面制作で時間が取られるため、学生時代に作ったものが大事だと思う。ピアノはできればできるほど良く、挨拶や態度、遅刻欠席しないなどの最低限のことを積み重ねることが重要だと思う。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・20 名は1度面接で不採用になった。また就職活動を始める時期に差もあった。
- ・目標喪失になる生徒もあり、進路などをすぐに決められない生徒がいた。
- ・2023 年度 7.7%だった退学率が 2024 年度 5.8%と前年より退学率が改善されたが、更なる改善策を要する。

② 今後の改善方策

- ・1 回の受験で採用になるように、面接対策などを実施する。
- ・学年担任制を活用し、目標喪失となった生徒の情報を密に共有する。
- ・退学率低減のための 1 年生を対象とした行事（こどフェス）等を行う。
- ・就職先訪問の数を増やし、卒業生との繋がりを強化する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

真壁委員：退学率は全体 5.8%だが、1年生のみではどのくらいいるか。

相澤さん：退学者 31 人中 27 人が1年生である。

平山委員：退学の時期はいつ頃が多いのか。早い時期に退学しているのか。

相澤さん：昨年度は早くて6月に退学者が出たが、多いのは前期末や後期末である。

津崎さん：単位不認定になるタイミングに退学を決意する学生が多いようである。

近年は退学希望の生徒に対する保護者の対応も変わってきていると感じる。本人の意思を尊重するのが大事な時代ではあるが、新たなことを見つけてからの退学と、目標もなく退学してしまうのでは意味が大きく異なる。

相澤さん：持病等では退学を止められないが、学生の退学をすぐに了承する保護者が増えたように感じる。近年は実習に行ってもモチベーションが下がる子は減ったが、目の前の目標に苦戦する学生はいる。

津崎さん：実習園側が温かい受け入れ態勢を整えてくださり感謝している。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・2024年度は1年生 27人、2年生 4人の退学者がおり、特に1年生は目標喪失の理由での中途退学が出た。
- ・卒業生支援について教員の意識が向けられていない。

② 今後の改善方策

- ・カウンセラーとの連携。早期に退学希望者がでないようなクラスの雰囲気を作る。
- ・リフレッシュルームなど、ゆっくりとした時間を過ごせる場所を提供する。
- ・実習巡回期間中に就職先訪問を同時に複数行い、卒業生との繋がりを強化。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：奨学金を利用して学ぶ学生もいると思うが、オープンキャンパスでの案内はどう行っているのか。

篠原さん：保育士就学資金については保護者会で案内しているが、本格的な案内は入学後に学生向けに実施している。保育士就学資金を利用する上で、就業年限の規定があることで申込者が少ない傾向にある。

真壁委員：3DAY コースで3日間のみの通学でも資質が高い子がいるかもしれない。

津脇さん：週に5日間の登校が難しいのであれば、就職の際にパートで働くなど、その子に合わせた教育をすることもあると思う。パートとしての就職でも十分に社会貢献になると思っている。

真壁委員：中途退学者の支援体制はどのようなことをやっているのか。

相澤さん：退学届けを受理する前に、退学後の本人の希望を聞きサポートしている。例えば、就職先を一緒に探したり、精神的に不安定な学生はカウンセラーにつないで気持ちをサポートしたりとできることを最後までサポートしていくようにしている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・老朽化に伴い冷暖房などの設備に一部不具合が発生した。
- ・インターンシップ参加学生数の伸び悩み(こども総合学科3年 在籍 81 名に対して 5 名のみ単位取得)

② 今後の改善方策

- ・2025 年度、大規模な空調工事、内装工事を実施。
- ・説明会内容の見直しや経験者から講話などを取り入れ、ボランティア・インターンシップの更なる促進。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・希望分野がなかなか決められない高校生や、保育分野の学校に進む高校生が減少傾向にあるため、さらなる職業の魅力の発信をしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・オープンキャンパスでの流れを変更し、より教育内容の理解を深められるよう、参加者と在校生との接点を増やす。
- ・SNS を活用し、学校の魅力を発信することを継続する。
- ・日中参加できない高校生や保護者に向けて夜に行う学校見学を実施する。

③ 特記事項

- ・2026 年度より3day コースをスタートする。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小山田委員: 自分が高校生の時、パンフレットから賑やかで楽しそうな雰囲気を感じオープンキャンパスに参加してみようと思ったが、今は SNS が主流なのでそちらで発信をしているのはいいと思う。現在、子育て支援センターを担当している。子育て支援センター用の Instagram アカウントがあり、そこから入園に繋がることもあったため、気軽に见られる SNS は活用していくべきだと思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・教職員全員が法令について知っていること、正しい理解をしていることが必要である。
- ・多くの生徒、卒業生、入学予定者の情報を扱う学校として、全教職員が自覚と緊張感をもって業務にあたることが重要である。

② 今後の改善方策

- ・職員会議などで情報の取り扱いについて緊張感を高める喚起を行い、引き続き個人情報の取り扱いには十分に注意し、資料や情報が外部に漏れないよう徹底する。
- ・教職員でコンプライアンス勉強会を実施するなど、常に知識のアップデートを行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・学生へのボランティア活動などについて、周知はしているものの、参加への促しができていない。

② 今後の改善方策

・案内が届いたボランティア活動の詳細を sankogate での発信や掲示をすることだけではなく、説明会の実施や HR 内での案内、経験者からの講話、個別の声掛けを実施し参加者を増やす取り組みを行う。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

真壁委員：姉妹園でボランティアの窓口用 LINE アカウントを開設しているが、利用者数が伸び悩んでいる。

小山田委員：ボランティアの問い合わせが減っていて寂しいが、職場体験や町探検で小中学生がくることが増えた。

加藤委員：授業後に来たり、空きコマで来たり、園でスケジュールを管理し、職員育成の目的も踏まえて、ボランティア学生を職員に割り当てている。ボランティア学生の対応も慣れてほしい気持ちもある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

津脇さん：1年間で変えられないものや劇的に変えなければならないこともあるが、お互いに知ることは養成校として必要だと思う。保育業界は、なり手が厳しい状況が続いているが、少子化の中でも日常を見ると前向きに学んでいる学生が多いため、多くの学生を現場に送り出したい。